

第2次有田市生涯学習推進計画

【計画案】

令和7年12月

有田市教育委員会

目次

第1章 策定にあたって	1
第1節 生涯学習とは	1
第2節 計画策定の趣旨	2
第3節 計画の位置づけ	2
第4節 計画の期間	2
第2章 生涯学習推進計画の基本構想	3
第1節 基本理念	3
第2節 基本方針	3
第3節 有田市が目指す生涯学習	3
第3章 有田市の生涯学習の現状	6
第1節 統計による有田市	6
第2節 アンケート調査の結果	8
第4章 基本的な施策	9
第1節 公民館活動と多様な社会教育の充実	9
1 公民館とコミュニティセンター	9
2 生涯学習推進事業	13
3 青少年健全育成	16
4 家庭教育	18
5 人権教育	20
第2節 コミュニティ・スクールを核とした地域と学校の連携・協働	22
1 コミュニティ・スクール(地域と学校の連携・協働)	22
2 部活動の地域展開	26
第3節 スポーツ・健康づくりの推進とスポーツ施設の活用	28
1 スポーツによる健康づくりの推進	28
2 スポーツ活動の支援	30
3 スポーツ施設の有効活用	32
第4節 文化芸術活動の推進と文化施設の活用	34
1 文化活動の支援	34
2 文化財の保護	36
3 文化施設の活用と芸術鑑賞の提供	38
第5章 生涯学習推進計画の評価	41
第1節 評価について	41
第2節 社会教育委員による点検(年次評価)	41
第3節 第3次生涯学習推進計画の策定に向けて	41

資料編	43
○ 生涯学習関係施設一覧	43
○ 第2次有田市生涯学習推進計画策定の経緯	45
○ 有田市生涯学習推進計画協議委員会委員名簿	47



第1章 策定にあたって

第1節 生涯学習とは

生涯学習とは、私たちが生まれてから亡くなるまで、一生涯にわたって行う学習活動のことです。教育基本法第3条では、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と示されています。

また、SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)17の目標の1つに、「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」という教育目標があります。国際社会は、一致団結して2030年までの達成を目指しています。

生涯学習とは

教育基本法第3条

国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

共に生きることを
学ぶ

為すことを
学ぶ

知ることを
学ぶ

人間として生きることを
学ぶ



生涯学習

家庭教育

- ・親や家族、地域の大
人一人一人が、地域
ぐるみで子ども達を
支え育んでいく社会
等々・・・

学校教育

- ・コミュニティスクール
- ・生涯にわたる学習を行うた
めに必要で基本的な能力・
自ら学ぶ意欲・態度の育成
等々・・・

社会教育

- ・公民館活動
- ・文化活動
- ・スポーツ活動
- ・ボランティア活動
等々・・・

いつでも Whenever
どこでも Wherever
だれでも Whoever
なんでも Whatever

第2節 計画策定の趣旨

有田市は、「第4次有田市長期総合計画」の目指すべき都市像「活力あふれる明るい未来のまち」を実現するため、平成28年度から令和7年度までの10年間に「有田市生涯学習推進計画」を進めてきました。

私たちが住む社会の変化を踏まえ、これまでの取組みをさらに発展させます。「第5次長期総合計画」の目指すべき都市像「人が輝き まちが色づく魅了都市 ありだ」の実現のためには、生涯学習機会の促進と生涯学習活動を通じた地域コミュニティの形成が必要です。

生涯学習の基本的な方向性と具体的な施策を示し、これからの方針となるよう「第2次有田市生涯学習推進計画」を策定します。

第3節 計画の位置づけ

本計画は、「第5次有田市長期総合計画」の内容と整合を図りながら、社会教育を柱とした生涯学習事業を積極的に進めます。本計画を指針として、行政、関係機関・団体、そして市民の皆さんのが連携し、一人一人がつながり合いながら、まち全体の力を高める取組みを進めていきます。

第4節 計画の期間

本計画は、令和8年度から令和17年度までの10年間とします。事業の進み具合を毎年確認し、社会環境の変化などによって必要が生じた場合は、施策を見直します。これにより、計画の効果的な運用を図ります。



市民の皆様からのご意見

人口減少が課題だと思うので、有田市に行きたくなる
ような取組みやまちづくりが必要である。(70代男性)

高齢者が生き生きと暮らせるよう、人と交流できる魅
力のある場を創ってほしい。(70代女性)

戦時中は学ぶ機会が少なかった。90歳を過ぎた今
も、学びたいと思っている。(90代女性)

第2章 生涯学習推進計画の基本構想

第1節 基本理念

「人を育て 場を生かし 地域に彩りをもたらす 輝きの好循環をつくる」

こどもから高齢者まで誰もがそれぞれの世代において人生の段階（ライフステージ）で生き生きと輝き、市民一人一人の学びが地域全体の持続的な発展につながるよう「人を育て 場を生かし 地域に彩りをもたらす 輝きの好循環をつくる」を基本理念とします。

第2節 基本方針

健やかに生き生きとした生活が実現でき、心豊かな人を育み、地域で支え合い、つながりを生む魅力あるまちを目指します。

そのため、本計画における基本方針を次のとおり設定します。

- 1. 地域で育てる「人づくり」**
- 2. 誰もが集える「場づくり」**
- 3. 新たな魅力を生み出す「地域づくり」**

第3節 有田市が目指す生涯学習

私たちを取り巻く社会は、デジタル化や価値観の多様化といった大きな変化に直面しています。こうした時代の変化にともない、新たな学びのあり方や環境づくりを模索していくとともに、一人一人のニーズに応じた豊かな学びを、市民の皆さんとともにつくっていく必要があります。

年齢や国籍、障がいの有無等に関わらず、だれもが、いつでも、どこでも、生涯を通じて学ぶことができるよう、基本方針を柱とした以下の内容について充実を図ります。

1. 地域で育てる「人づくり」

地域の担い手となる人材を育て、地域の活動を支えられる人を増やします。

- ・全世代における学びの充実：乳幼児期の親子の学びから、青少年期の学校や地域での体験学習、成人期の仕事につながるスキルアップ、高齢期の健康と生きがいづくりなど、ライフステージに応じた学びの機会を提供します。

- ・地域に貢献できる人材の育成：学習を通じて得た知識や技能を「地域のために生かしたい」という意欲のある人を育てます。特に、学校のコミュニティ・スクールや公民館事業を通じて、指導者やボランティアとして活躍できる人材を育成します。
- ・社会の変化に対応する力：デジタル化の進展に対応できるよう、高齢者を含む全ての市民が情報やICT（情報通信技術）を活用できる知識や技能（デジタルリテラシー）を身につけるための学習機会を充実させます。

2. 誰もが集える「場づくり」

みんなが集まり、楽しく学び合える場所や機会を充実させます。

- ・連携と役割分担の強化：公民館を第一の拠点として、学校（コミュニティ・スクール）、新設された文化・スポーツ施設（市民会館、図書館、市民水泳場「えみくる ARIDA」、健康スポーツ公園「BIG SMILE PARK」など）が、それぞれの役割を明確にして連携します。
- ・多様な交流の創出：年齢、国籍、障がいの有無などにかかわらず、誰もが参加しやすいユニバーサルな学習環境を整備します。施設を「出会い、語り合い、学び合う」ための交流拠点として活用し、市民の孤立を防ぎ、地域でのつながりの輪を広げます。

3. 新たな魅力を生み出す「地域づくり」

学んだ成果を生かし、地域全体の活性化につなげます。

- ・学習成果の地域への還元：市民が学習によって身につけた知識やスキルを生かし、地域課題の解決や伝統文化の継承、新しい地域活動の企画に取り組みます。
- ・産業との連携：地元企業と連携することで、地域資源を活用し地域の魅力を引き出す事業を展開します。
- ・人と場をつなぐ役割：社会教育主事や公民館主事等が「学びたい人」と「教えたいたい人」、そして「活動の場」をつなぐ役割を担います。

生涯学習を通じて、「人が育つ」→「交流の場が生きる」→「地域が豊かになる」という流れを作り出します。市民一人一人が輝き、その光がまち全体に広がる「輝きの好循環」を実現することで、「人が輝き まちが色づく 魅了都市ありだ」につなげます。

計画の体系図

第5次有田市長期総合計画

将来都市像

人が輝き まちが色づく魅了都市 ありだ
～みんなが躍動する Active Arida～

分野別まちづくり目標

心豊かな人を育み、地域で支え合うまち

第2次有田市生涯学習推進計画

基本理念

人を育て 場を生かし 地域に彩りをもたらす
輝きの好循環をつくる

基本方針

基本的な施策

具体的な取組み

人づくり
場づくり
地域づくり

公民館活動と
多様な社会教育の充実

1. 公民館とコミュニティセンター
2. 生涯学習推進事業
3. 青少年健全育成
4. 家庭教育
5. 人権教育

コミュニティ・スクールを核と
した地域と学校の連携・協働

1. コミュニティ・スクール
(地域と学校の連携・協働)
2. 部活動の地域展開

スポーツ・健康づくりの推進と
スポーツ施設の活用

1. スポーツによる健康づくりの推進
2. スポーツ活動の支援
3. スポーツ施設の有効活用

文化芸術活動の推進と
文化施設の活用

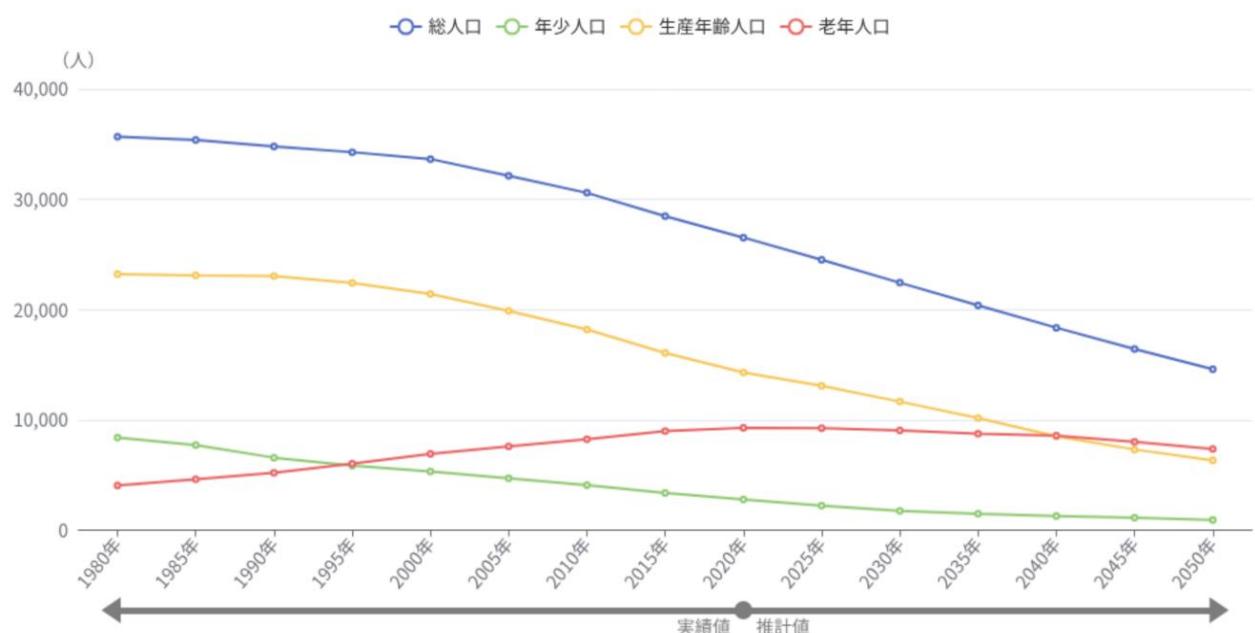
1. 文化活動の支援
2. 文化財の保護
3. 文化施設の活用と芸術鑑賞の提供

第3章 有田市の生涯学習の現状

第1節 統計による有田市

人口動態

総人口は昭和55年(1980年)の35,683人をピークに減少に転じ、令和2年(2020年)で26,538人となっています。令和22年(2040年)には、推計で18,356人になり、老人人口が生産年齢人口を上回ると想定されています。

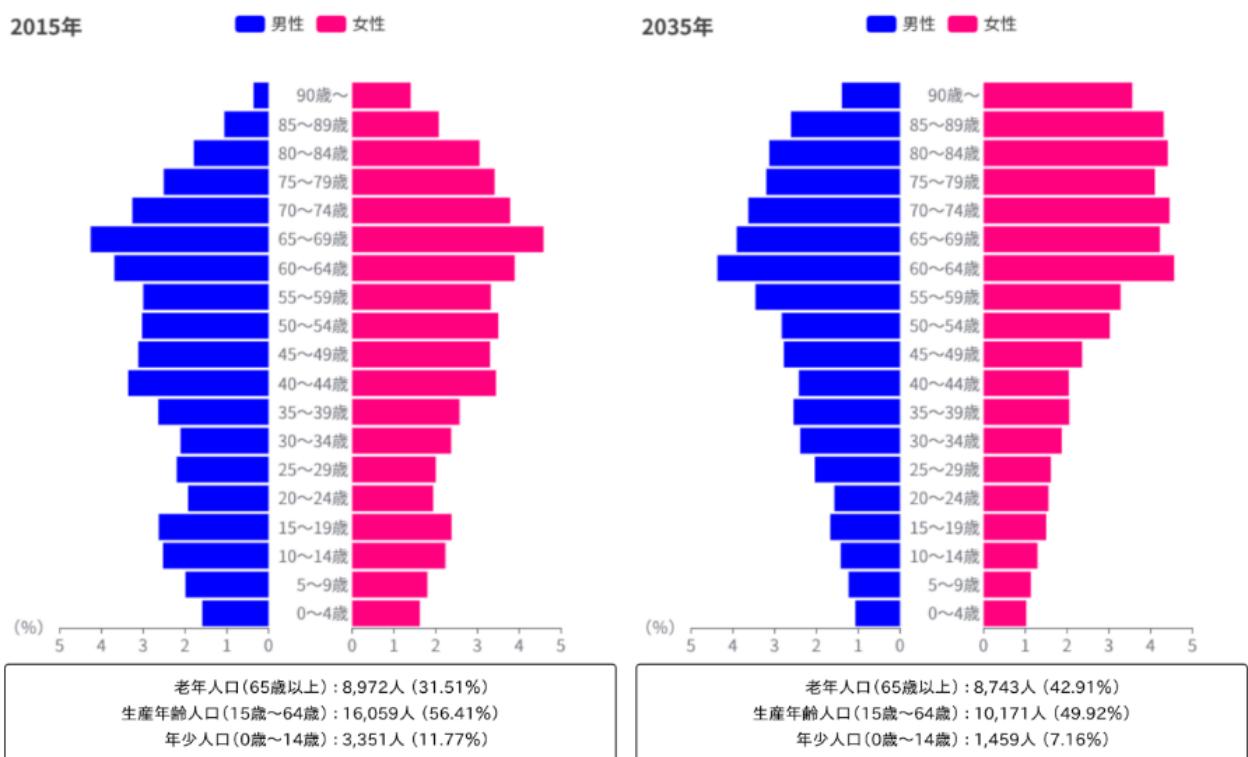


出典：RESAS(人口構成分析)

西暦 和暦	1980年 昭和55年	1995年 平成7年	2010年 平成22年	2025年 令和7年	2040年 令和22年
総人口	35,683	34,283	30,592	24,520	18,356
年少人口 (0歳~14歳)	8,396 (23.53%)	5,843 (17.04%)	4,086 (13.36%)	2,212 (9.02%)	1,280 (6.97%)
生産年齢人口 (15歳~64歳)	23,233 (65.11%)	22,421 (65.4%)	18,195 (59.48%)	13,078 (53.34%)	8,506 (46.34%)
老齢人口 (65歳以上)	4,046 (11.34%)	6,019 (17.56%)	8,228 (26.9%)	9,230 (37.64%)	8,570 (46.69%)

人口ピラミッド

人口を5歳階級別にみると、平成27年（2015年）では、男女とも第一次ベビーブームを含む世代（65～69歳）、第二次ベビーブームを含む世代（40～44歳）が大きく膨らんでいます。令和17年（2035年）の推計を見ると、第二次ベビーブームを含む世代（60～65歳）をピークに、上の世代の人口が増え、下の世代に行くにつれ減少傾向にあります。



出典：RESAS（人口構成分析）

第2節 アンケート調査の結果

アンケート調査の方法

市内にお住まいの18歳以上の方1,000人（令和6年11月末時点）を年齢ごとに、無作為に抽出してアンケートを実施しました。回答方法は、郵送とWeb（二次元コード）で380人から回答がありました。

年齢区分別

年齢区分	対象者	回答者	回答率
18,19歳	30人	7人	23.3%
20代	160人	31人	19.4%
30代	150人	44人	29.3%
40代	150人	42人	28.0%
50代	150人	58人	38.7%
60代	150人	86人	57.3%
70代	150人	83人	55.3%
80代	47人	25人	53.2%
90代	13人	4人	30.8%
合計	1,000人	380人	38.0%

地区別

地区	対象者	回答者	回答率
初島	87人	37人	42.5%
港町	88人	30人	34.1%
箕島	92人	41人	44.6%
宮崎	111人	53人	47.7%
保田	201人	92人	45.8%
宮原	172人	58人	33.7%
糸我	61人	28人	45.9%
中央	188人	41人	21.8%
合計	1,000人	380人	38.0%

回答方法別

回答方法	件数	割合
郵送	301件	79.2%
Web	79件	20.8%
合計	380件	100%

アンケート調査の結果は、下記 URL からご覧ください。

URL: <https://www.city.arida.lg.jp/shisei/keikaku/1005390.html>

二次元コード:

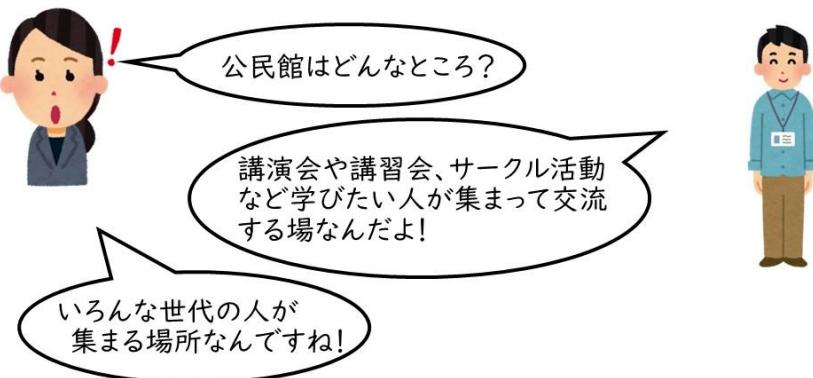


第4章 基本的な施策

第1節 公民館活動と多様な社会教育の充実

I 公民館とコミュニティセンター

●公民館



有田市には連合自治会地区ごとに8館の公民館があり、それぞれが独立した館として設置され、市が管理運営しています。

◆現状と課題

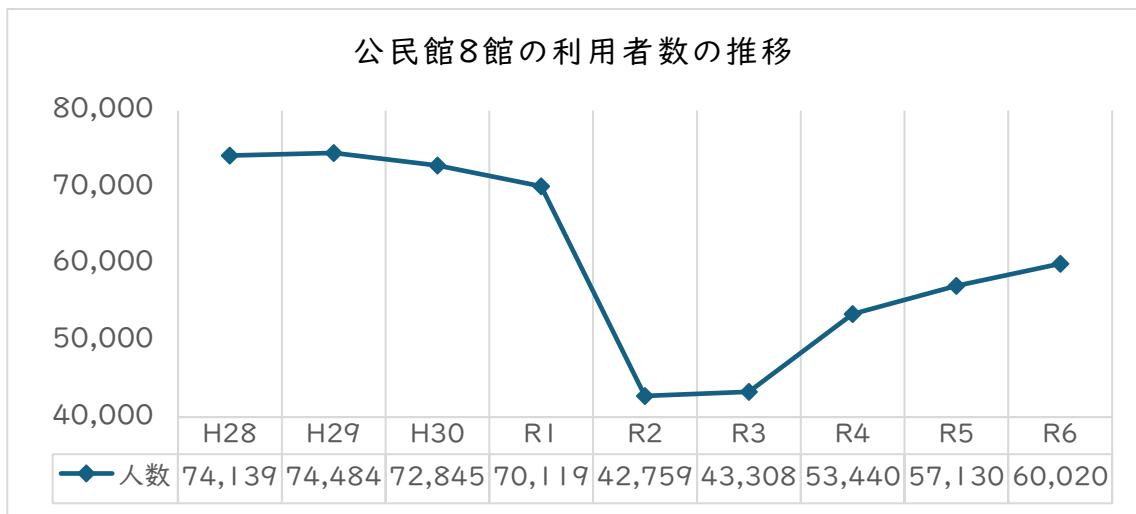
区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none">・貸館業務により、多種多様なジャンルの自主サークル（約150団体）が活動し、一人一人の生涯学習活動、地域づくり、人と人とのつながりづくりを行っている。・自主事業においては8館それぞれの特徴を生かし、特色ある独自のプログラムを企画している。・地域ふれあいルーム事業を実施し、こどもが安心できる居場所づくりを推進するとともに、体験活動を通じて、こどもと地域の大人との交流、異年齢のこどもたちの交流ができている。
課題	<ul style="list-style-type: none">・全ての館が築40年以上で老朽化しており、安全で快適に使用できるように定期的な修繕が必要。・利用者数は、新型コロナウイルス感染症が流行する前の水準に戻っていないので、利用者数を増やす取組みが必要。・普段利用していない市民にも利用してもらえる工夫が必要。



サークル活動「女性の健康マージャン」



自主事業「健康づくり」



市民の皆様からのご意見

身体が不自由な方であっても、座って学べる機会があれば、生きがいにつながる。(50代男性)

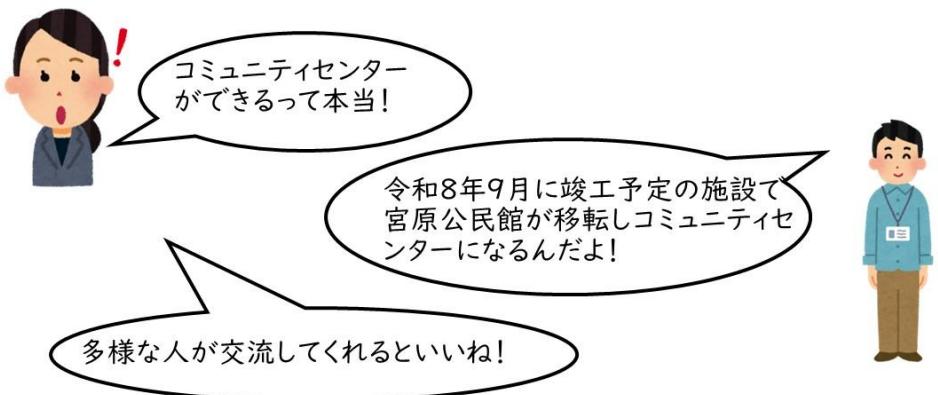
生涯学習とは、自分の好きなことを好きなときに自由に学習することだと思っている。今は、自宅でオンライン等で学んでいるが、人と交流することも大切だと思う。(60代女性)

農業をしていて、畠で友人と会話することが生涯学習の場になっている。(70代女性)



「人生」そのものが生涯学習だと思う。地域住民のコミュニケーションの希薄化により地域力が低下しているように感じる。様々なことに興味や関心を持つべき。(60代男性)

●コミュニティセンター



コミュニティセンターは、地域住民の交流、生涯学習、文化活動、福祉、まちづくりなどを目的とした公共施設です。今まで公民館で行ってきた自主事業やサークル活動に加え、より自由度の高い地域づくり活動や地域資源等を活用した収益事業などが可能となります。

「地域にひらき、地域とつながる、地域に守られた施設」がコンセプトの複合公共施設の一つとして「宮原コミュニティセンター」は、令和8年9月しゅん工予定です。



「宮原コミュニティセンター」完成予想図

◆今後の方針

【公民館】

- ① 安全で快適な利用環境の確保：老朽化した建物は定期的な改修・整備を行うとともに、公共施設との複合化も検討します。
- ② 利用者増加とニーズへの対応：ヨガや健康マージャン、料理教室等の人気の事業を継続し、新たなニーズの把握に努めるとともに、市民のニーズに応じた多様な使い方ができる企画運営を行います。

【コミュニティセンター】

- ③ 多世代交流の拠点化：併設の認定こども園や宮原地区体育館と連携し、交流やふれあいの場を増やし、多世代が賑わう施設を目指します。
- ④ 地域活性化への貢献：地域の意見を聴き、市民が使いやすいよう運営し、和歌山大学との連携を活かした地域活性化の取組みを行います。

市民の皆様からのご意見

公民館等で長く行っている活動には、途中からは参加しづらいと感じる。(70代女性)

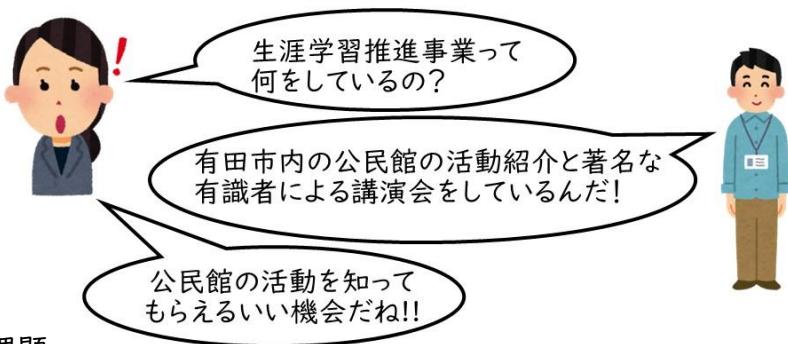
公民館での陶芸教室に参加し、電気窯での焼き方など覚える事が多いが、様々な世代の方と一緒に作品づくりに熱中している。(70代女性)

乳幼児が楽しく交流できる場所や施設を増やしてほしい。(70代男性)

車いすを利用していても、気兼ねなく参加できる教室等を増やしてほしい。(50代女性)



2 生涯学習推進事業



◆現状と課題

区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が生涯にわたって学習する機会を増やすため、平成6年度より活動体制を整備し、自主運営への移行を支援してきた。 <ul style="list-style-type: none"> (例) ○文芸大会→平成17年度から有田市文化協会と共に ○オレンジコンサート→平成22年度から自主運営 ○みかんの里で踊りま Show!→平成27年度から自主運営 ・平成27年度から実施している「みかんの里のフェスティバル！」は、有田市にある8公民館で活動している自主サークルを中心に作品展示、芸能など日頃の活動を発表する機会となっている。 ・令和2年度から隔年で実施している「こどもバラエティーショー・生涯学習講演会」では日頃見ることのないパフォーマンスや生演奏、講演など、見ること、知ること、感じることで生涯学習の学びにつながる企画となっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館サークル活動の高齢化、後継者不足により、みかんの里のフェスティバル！の出展者・出演者が減少傾向にある。





▼「みかんの里のフェスティバル!」来場者数の推移(概算)

年度	H28	H29	H30	R4	R6
人数	1,350	1,825	2,615	1,800	2,000

▼「こどもバラエティーショー」来場者数の推移 ▼「生涯学習講演会」来場者数の推移

年度	R3	R5
人数	130	212

年度	R3	R5
人数	240	669

◆今後の方針

- ・新たなサークル活動の創出：公民館の自主事業を積極的に行い、それが参加者の新たなサークル活動につながるような流れを作ります。
- ・多世代交流の促進：文化、スポーツ、健康など多岐にわたるテーマで、多世代の参加を促し交流する機会を提供します。
- ・若手リーダーの育成と参加促進：若年層が興味を持てる企画や文化・スポーツなど、多岐にわたるテーマの提供を通じ、活動の担い手を増やします。

市民の皆様からのご意見

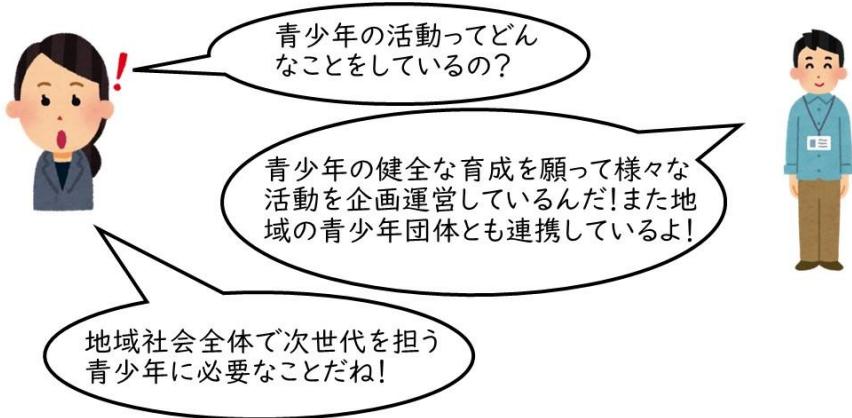
好きなことを追求し上達すれば人に教えられるようになり、人の役に立つと同時に自己の成長につながる。(40代女性)

時間や金銭面で余裕を持てるようになれば、生涯学習をしていきたい。(30代女性・50代男性)

地域に特化したものである必要はなく学びのきっかけの場を与える活動を行ってもらいたい。(30代男性)



3 青少年健全育成

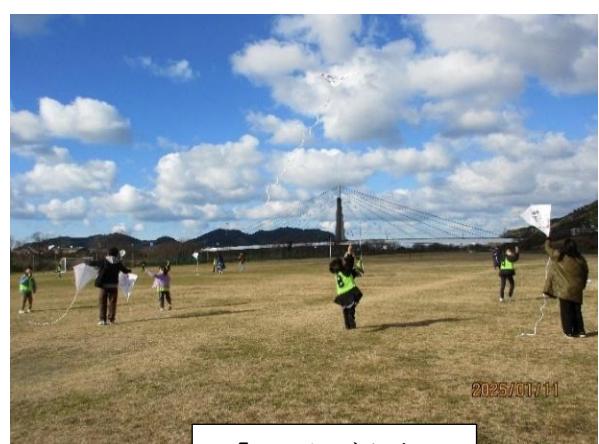


◆現状と課題

区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none"> 「地域ふれあいルーム」や「夏休み体験学習教室」など、子どもの居場所と体験の機会を提供し、主体性、協調性、創造性を育んでいる。 「親子体験教室」を毎年開催し、家庭では体験できない活動の機会を提供することで、親子の絆を深める機会につなげている。 「たこ作り教室」や「たこあげ大会」を長年開催するなど、日本の伝統文化を継承している。 下級生のリーダー的存在を目指すジュニアリーダーの育成に力を入れている。 地域社会全体で次世代を担う青少年の健全な育成を目指し、団体への支援も行っている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 少子化、地域とのつながりの希薄化、スマートフォンの普及など社会の変化の中で、青少年の関わる問題は深刻な状況にある。 関係機関が連携して、心身の健康を増進し、社会的適応能力を向上させ、情操を豊かにしていく必要がある。



「たこ作り教室」



「たこあげ大会」



「ジュニアリーダー研修会」
(大阪府立青少年海洋センター)



親子体験教室「アイスクリーム作り」

◆今後の方針

- ① 魅力的な事業の企画：伝統文化の継承や親子の絆を深めること、地域との交流、リーダーシップの発揮などを目的として事業を実施します。
時代のニーズに合った新しい事業や、学校教育では体験できない企画により、多様なことに興味を持つてもらえるようにします。
- ② 豊かな人間関係の構築：地域において、青少年と大人がより豊かな人間関係を築き、ともに支え合い、育ち合うことができる社会の実現を目指します。

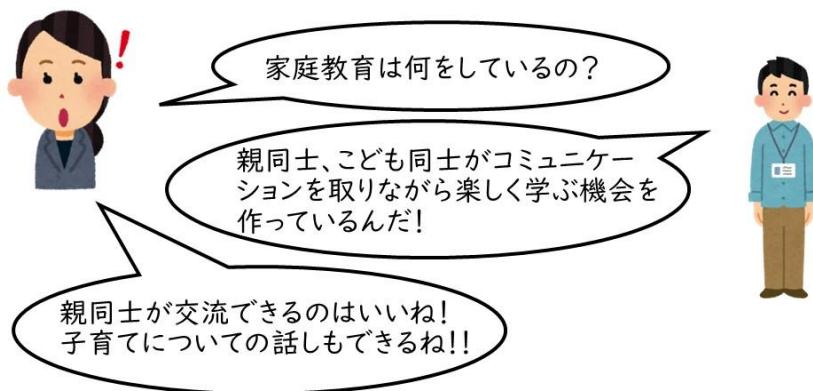


市民の皆様からのご意見

若い世代が、様々な資格を取得できればいいと思う。(60代女性)

子どもが自主的に発言や行動ができるようになってほしい。身体を動かすことで心身ともに健全になれると思うので、そのような取組みがあればよい。(40代女性)

4 家庭教育



◆現状と課題

区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none">未就学児の親の孤立を防ぐため、平成 26 年度から家庭教育支援講座「親こみゅ」を実施し、子育ての学習と親同士の交流の場を提供している。親子参加型の「親子プログラミング教室」など、新しい学びへのきっかけづくりを行っている。
課題	<ul style="list-style-type: none">子育ての悩みや情報収集を SNS 等のインターネットに頼る状況が増え、地域のつながりが希薄化している。継続的な支援体制が十分に確保できておらず、多様化する保護者のニーズに応じた内容になっていない。



親こみゅ「マインクラフトで学ぶプログラミング」



親こみゅ「プログラミング体験」

◆今後の方針

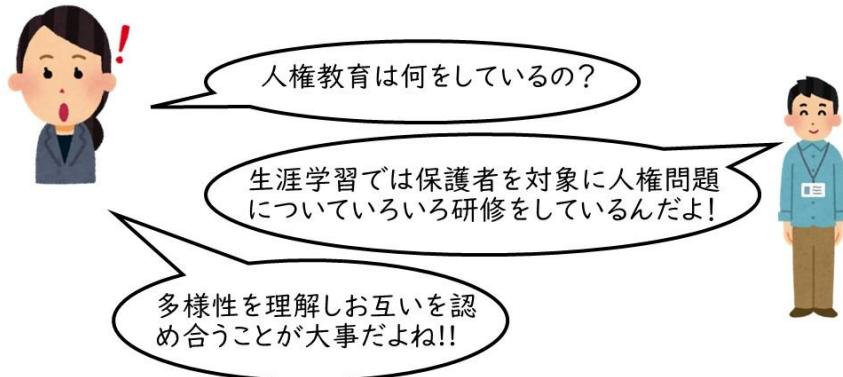
- ① 対面での意見交換の促進: SNS 等で情報収集が増える中で、専門家を交えた対面での意見交換や情報交換も必要であると考え、親子で参加でき、親同士が交流できる企画を提供します。
- ② 継続的な支援の推進: 参加しやすい環境を整えつつ、ニーズに合った内容を継続的に実施します。

市民の皆様からのご意見

市の臨床心理士の子育てについての話を聞いてみたい。子育ての悩みを解決できるような場を設けてほしい。土日でも参加できるようにしてほしい。(30代女性)



5 人権教育



◆現状と課題

区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校7校において保護者学級を実施し、児童の保護者を対象に様々な人権問題に対する理解を深めている。 ・各学校や地域の実態の把握に努めながら、学校教育と社会教育の両面から取組みを進めている。 <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○和歌山県助産師会による思春期相談・性教育をテーマとした学習会（保護者学級） ○警察・スクールロイヤーによる「インターネットと人権」をテーマとしたPTA講演会 ○和歌山県人権啓発センターによる講演会
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を日常生活と結びつけて捉えきれておらず、学びが自分事として定着しにくい状況にある。 ・人権に関する知識や関心に個人差が大きく、学習の理解度や参加意欲に差がでやすい状況にある。



「保護者学級」性教育



「PTA 講演会」インターネット犯罪

◆今後の方針

- ① 学習機会のさらなる充実：日常生活と結びつけて理解できるよう、身近なテーマを扱う機会を増やし、保護者が自分事として学べる環境を整えていきます。
- ② 学びの場の工夫：多様なテーマや参加しやすい形式を取り入れ、理解度や関心に応じた学習につなげることで、保護者の参加意欲を高めていきます。

市民の皆様からのご意見

子どもが、有田市をより大事にしたいと思えるまちづくりをしてほしい。(30代女性)

生涯にわたり打ち込めるを見つけるための、様々な機会を提供してほしい。(30代女性)

社会教育施設内の取組みと考えず、日々の生活の中で学ぶ機会が多々ある。(70代男)

子育て、仕事、家事、親の介護等で、生涯学習に費やす時間がない。(40代女性・60代男性)

身体を鍛えたり、食生活に気を使ったりすることで、心身が穏やかになった。(40代女性)

生涯学習コーディネーターによる働きかけが必要だと思う。(70代男性)

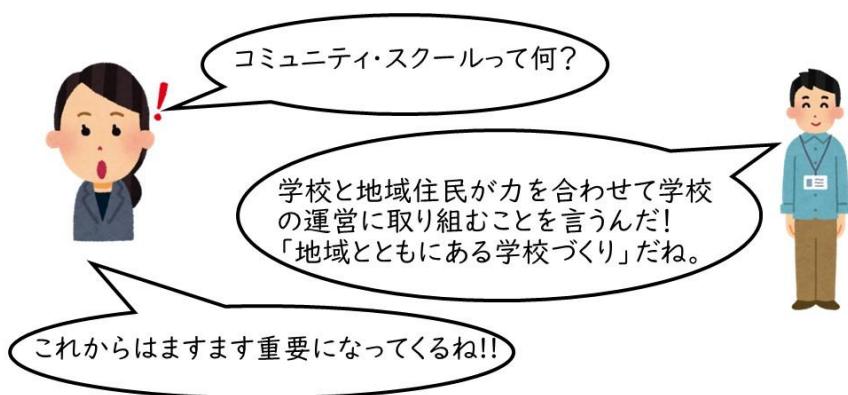
市民に何に興味があるのかを聞き実施すべき。
(10代男性)



第2節 コミュニティ・スクールを核とした地域と学校の連携・協働

I コミュニティ・スクール（地域と学校の連携・協働）

● コミュニティ・スクール



コミュニティ・スクールは、「学校運営協議会」を設置した学校です。学校運営協議会を通じて、地域住民が学校運営に参画する仕組みで、学校と地域が目標やビジョンを共有し、連携・協働しながらこどもたちを共に育み、地域とともにある学校を目指します。

学校と地域がパートナーとして連携・協働することで、こどもたちの教育環境が充実するとともに、地域全体での生涯学習の機会も拡大していきます。

◆ 現状と課題

区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none">平成29年4月1日より、全ての小・中学校がコミュニティ・スクールとなり、学校運営協議会を通じて地域住民が学校運営に参画している。学校運営にこれまで以上に地域社会の視点が入り、地域住民が学校の教育活動に関わる機会が増えている。豊富な知識や経験を持つ地域住民が「地域の先生」として関わることで、こどもの学びが豊かになり、住民の新たな学びや生きがいにつながっている。
課題	<ul style="list-style-type: none">学校運営協議会の役割が安定してきている一方、学校や地域の本質的な問題について議論が深まっていない。地域と連携した活動の質の向上に関して改善が必要。



学校運営協議会



中学生が教えるスマホ教室

(例) コミュニティ・スクールとしての有和中学校の取組み「学校新聞 つなぐ」

つなぐ

有和中学校
企画：有和中学校運営協議会
題字・紙面作成：有和中学校生徒会執行部

有田市の学校が一つになって有和中学校になりました。有田市にお住まいのみなさんには、有和中学校のことを知ってもらいたい、身边に感じてもらいたいと考え、先生や学校運営協議会の委員さんと相談しながら新聞をつくることにしました。

**開校して1年がたって
有和中学校ってどうなってるん?**

という地域のみなさんの声を、7月のはじめに学校運営協議会の委員さんから聞かせてもらい、委員さんと生徒会執行部、3年中央委員会が話し合いました。そこでの内容をお伝えします。

Q 校区が広くなったが、遊びに行くか?

A 変わらず遊びに行く。湯浅ぐらいまで行動範囲がある。目的は釣り。
有田市で遊んでいる(昔はほかの地域に遊びにいかなかった)。
遊びときは自転車で行ったり来たりする。釣りに行ったりする。
土日はイオンまで出かけることもある。

Q 統合して、新しい友達はできたか?

A 関係なしに仲良くなれた。
最初は仲良くなれるか不安があったが、クラスや部活で仲良くなれた。
新しい友達が増えたが、生活的には変わらない。

Q どのように通学しているか?

A 徒歩や自転車
電車
スクールバス
デマンドバス(雨の日は、バスに乗る人が多いことがある)

回覧

有和中学校のアピールポイント①

校舎は世界的に著名な建築家の隈研吾さんが設計したものです。大階段には、有田市の特産物であるみかんの皮を練り込んだ鮮やかな色の漆喰の壁があります。きれいな校舎で過ごすことができ、みんなとても喜んでいます。

Q 新しく変えたい校則はあるか?

A スマホOKにしてほしい。
靴下の柄の大きさはでもよくないか?
要型は学校生活に適したものがあることは分かる。
生徒会としてスマホOK、要型ハーフアップOKにしていきたい。

Q 好きな給食は?

A ブルーツボンチ カレー ひじき
何でもおいしいです。地域のみなさんにも食べてもらいたいです。

有和中学校のアピールポイント②

教室に大きなモニターやプロジェクターがあってICTの設備が整っています。授業ではタブレットを使って勉強しています。タブレットは毎日持ち帰って使ったり、次の日のために充電もしています。教科書は紙の教科書に加えてタブレットにも入っています。自分のやりやすい方で勉強しています。

生徒会執行部幹部(文責:生徒会執行部)

有和中学校では、体育大会や文化祭といった学校行事が熱いです! 体育大会では、各競技や応援が盛り上がるのももちろんのこと、今年は保護者 vs 生徒の綱引きを行い、熾烈な戦いを繰り広げました! また文化祭での歌声は、自分たちで言うのもおこがましいですが圧巻でした。保護者、地域の方も大勢来てくださいました。わたしらの歌声を楽しんでくれました。もちろん展示作品も力作揃いでですよ。バイクの学校との交流は今も続けていて、9月にはドバイから40人ほどの生徒の皆さんがあわせで来てくれました。12月には有和中から2年生20人がドバイに行きます。楽しめてほしいなと思います。

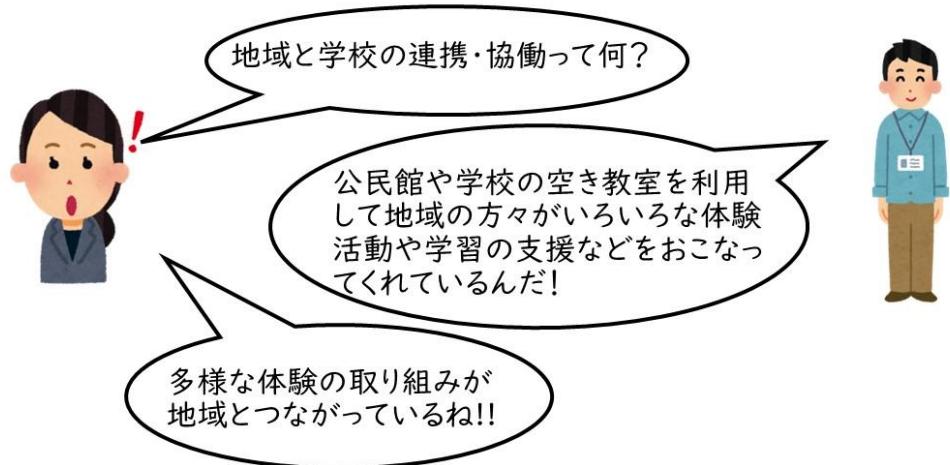
生徒会が今後実現していくことを計画していることは、毎年実現しています。去年は、生徒会発表でかくれんぼ大会を行って、学年、生徒、先生関係なく、一緒に楽しめました。去年のようなみんなが楽しめる企画を創り上げたいと思います。今、校長先生に提案する準備を進めているところです。乞うご期待です。

3つのポイント

- ① 学校運営協議会による話し合いがきっかけになっていること
- ② 生徒会執行部が主体となり、学校運営協議会及び学校教諭と協働制作していること
- ③ 生徒が地域の皆様に、有和中学校をアピールしたいということ(回覧板で周知)

23

●地域と学校の連携・協働



コミュニティ・スクールを核として地域住民等の参画や地域の特色を生かした事業を展開することで、まち全体で地域の将来を担う子どもたちを育成するとともに、地域コミュニティの活性化を図ります。

◆現状と課題

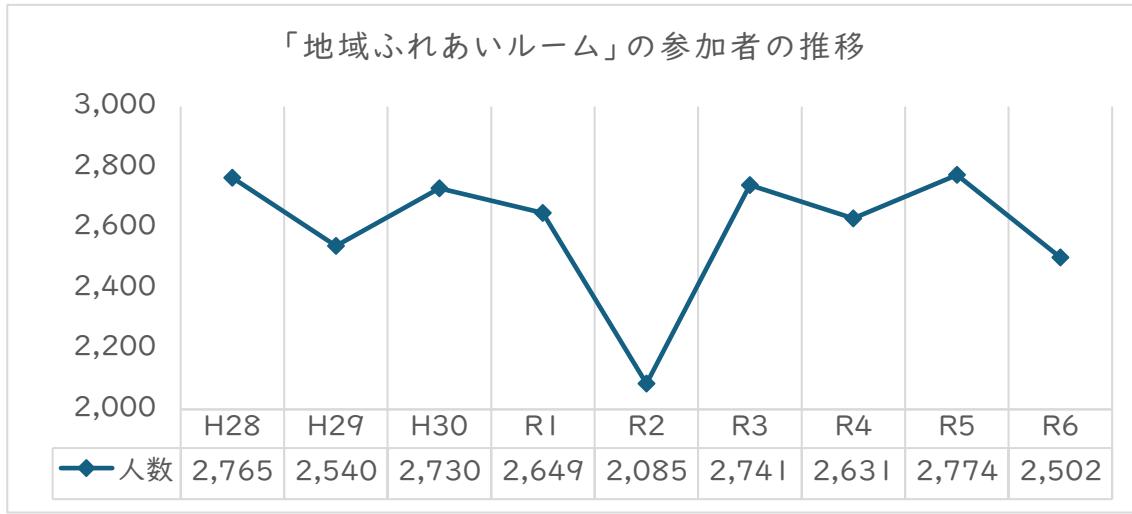
区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none"> 「地域ふれあいルーム」では、水曜日の放課後や土曜日を基本に各公民館で月に数回、地域の人と交流しながら工作・科学・料理・スポーツ・季節のイベントなどの体験活動を実施している。 「夏休み体験学習」では、和歌山工業高等専門学校との出前授業など、知的好奇心を高める多様な取組みを行っている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 知的好奇心や自主性、協調性を高めるための多様な取組みを考える必要がある。 事業を持続可能にするためには、地元の活力の導入が必要である。



地域ふれあいルーム「てんてこ団子づくり」



夏休み体験学習教室「ロボット操作体験」



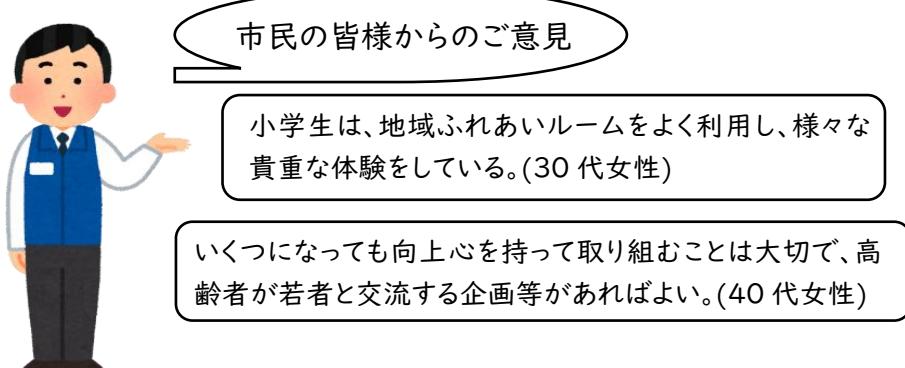
◆今後の方針

【コミュニティ・スクール】

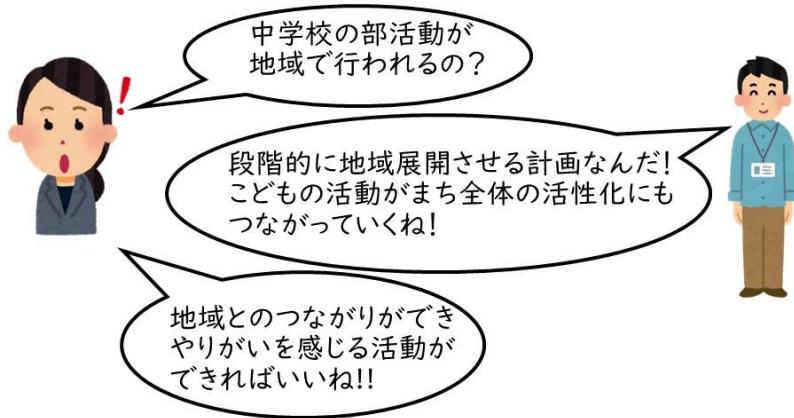
- ① 活動の質の向上と成果への継続：「よりよい活動の中で地域住民一人一人の学びが推進される」を念頭に、取組みを継続し成果につなげます。
- ② 地域連携の深化：コミュニティ・スクールを核として、地域住民同士が連携を深め、共に学ぶ生涯学習社会の実現に向けて取り組みます。
- ③ 課題解決に向けた研修：学校と地域が相互に補完し高め合う両輪となる姿を目指します。定期的に行政側が研修の場を設定し、関係者が課題を認識した上で改善策を考える機会をつくります。

【地域と学校の連携・協働】

- ④ 学習への興味喚起：知的好奇心や自主性、協調性を高めるために多様な体験活動を提供し、学ぶことの楽しさを知ってもらう取組みを行います。
- ⑤ 事業活性化：現在行っていない分野を新たに取り入れた教室を実施し、魅力的な内容を企画するとともに、地元の企業や団体、大学生・専門学校生が参画し、双方が学びにつながるような取組みを計画します。



2 部活動の地域展開



◆現状と課題

区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none">令和7年度は594名(12月1日現在)の中学生が在籍しているが、近年の出生数から10年後には400名以下の規模となる見込み。中学生の部活動においては、主に中学校の教員が指導者となっている。主に中学校が活動の拠点となっている。
課題	<ul style="list-style-type: none">生徒数減少によって、現存する部活動の存続が危ぶまれ、多様なニーズに応えるのが難しくなる。平日の活動においては指導者の確保が困難。学校外での活動が増えることによる安全面の確保。

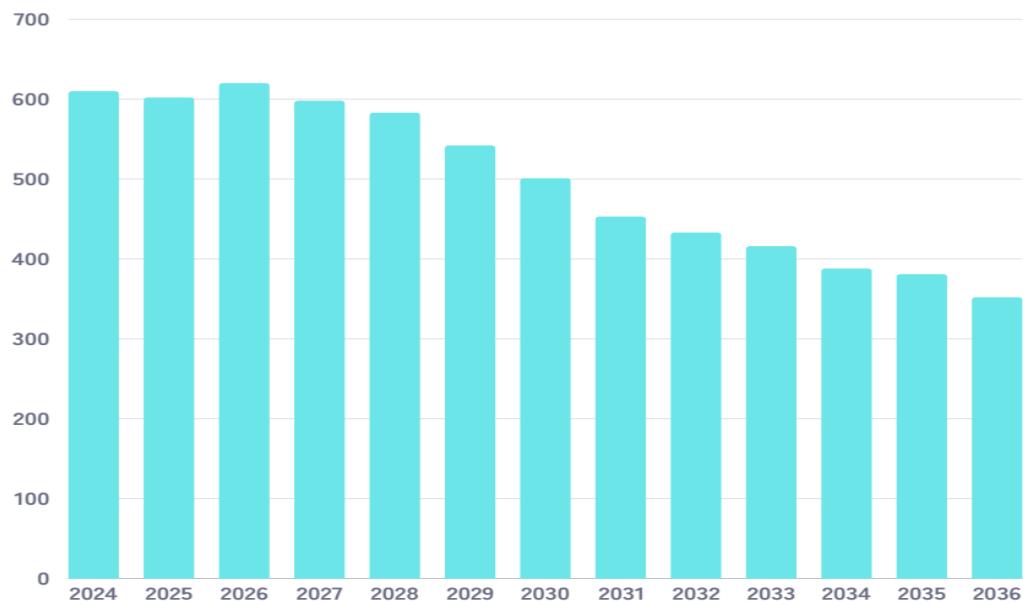
市民の皆様からのご意見

元気な高齢者が増えているので、豊富な知識や経験、技能を生かせる場があればよいのではないか。(70代男性)

人生経験を次の世代に伝承することが大切であると感じている。(70代女性)

今は仕事をしているが、退職後に社会とつながりがなくなるのではと心配している。退職後の生活を充実できるような取り組みがあればうれしい。(60代女性)





有田市における中学生の生徒数の推移（有田市内の出生数をもとに算出）

◆今後の方針

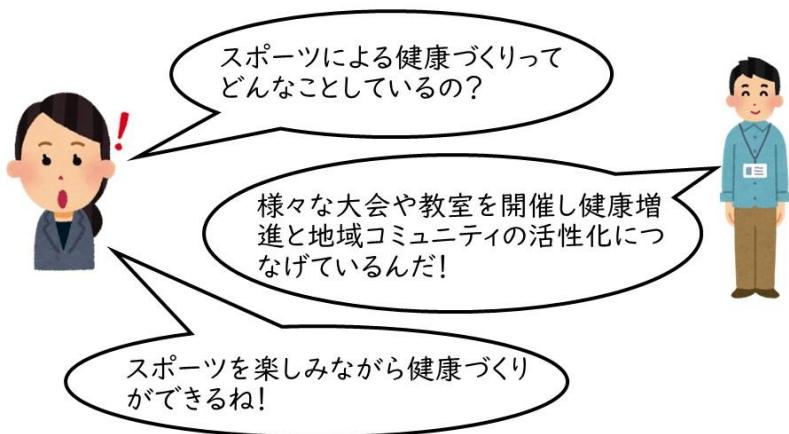
- ① 段階的な部活動の地域展開：国の方針として、令和8年から令和10年までが改革実行期間（前期）、令和11年から令和13年までが改革実行期間（後期）として全ての休日の部活動を地域展開するとされており、有田市においてもその方針に沿って段階的に部活動の地域展開を進めていきます。
- ② 安全な環境整備と施設活用：こどもが安全に部活動に取り組める環境整備を行うため、学校施設だけでなく、市内の社会教育施設を有効活用できる体制を整えます。
- ③ 指導者の継続的支援：指導者の担い手不足や資格が必要な分野があるため、資格取得等の指導者育成を継続的に支援します。
- ④ 自立した運営団体の育成：持続可能な運営主体が育つよう支援する。公費支援のみに頼らない、受益者負担や賛助金制度等を活用し、安定した財源確保の体制整備を進めています。

2つのポイント💡

- ① 持続可能な部活動の地域展開を実現することで、少子化が進む有田市において、こどもが多様な活動に関わり希望ある未来を想像できる環境の整備へつながります。
- ② 多世代との交流、地域企業との連携によりこどもの活動が街全体の活性化にもつながります。

第3節 スポーツ・健康づくりの推進とスポーツ施設の活用

I スポーツによる健康づくりの推進



◆現状と課題

区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none">市民総合スポーツ大会、スポーツ教室、歩こう会、ニュースポーツ体験会などを継続開催し、健康増進と地域コミュニティの活性化につなげている。各スポーツ施設の整備を進め、安全で快適な環境のもと、幅広い市民がスポーツに親しめる基盤を整えている。イベントに参加することや施設を利用することで、多世代が交流し、コミュニティの形成につながっている。
課題	<ul style="list-style-type: none">世代ごとのニーズに応じた施策を展開し、運動習慣の定着を図る必要がある。



「市民総合スポーツ大会」



「歩こう会」

▼「市民総合スポーツ大会」の参加者の推移(概算)

年度	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	R6
人数	2,000	2,000	2,000	2,000	(中止)	700	1,500	1,000	1,000

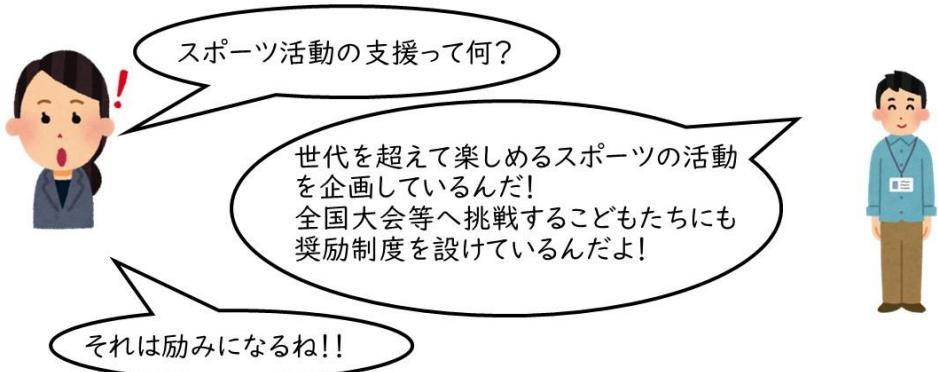
▼「スポーツ教室」の参加者の推移

年度	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	R6
人数	217	222	257	210	(中止)	147	171	111	137

◆今後の方針

- ① 各世代ニーズへの対応: 各世代のニーズに応じた魅力的なプログラムの提供を通じてサービス向上を図ります。
- ② ICTを活用した利便性の向上: ICTを活用した施設予約やイベント情報の配信など、利便性の高い運営を目指します。
- ③ 生涯スポーツ人口の拡大と地域の一体感: 生涯スポーツ人口の拡大と地域社会の一体感の醸成を推進し、全ての市民が安全・快適にスポーツを楽しめる環境づくりを推進します。

2 スポーツ活動の支援



◆現状と課題

区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室の開催や、全国大会等出場選手への奨励金交付を通じて、競技力の向上とスポーツ振興を図っている。 ・総合型地域スポーツクラブへの支援を継続し、地域における活動拠点形成を進めている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・世代ごとのニーズに応じた活動環境を整備し、スポーツの基礎を育むことや、運動習慣の定着を支援する必要がある。



「総合型スポーツクラブ」



「全国大会等出場の奨励制度」

▼全国大会等出場奨励金の対象者数の推移

年度	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	R6
人数	117	124	142	69	21	88	99	125	123

◆今後の方針

- ① 持続的なスポーツ環境の構築：青少年の育成、成人の健康づくり、高齢者の生きがい創出という三本柱を通じ、世代を超えて楽しめる環境を構築します。
- ② 生涯スポーツの推進：市民一人一人が主体的にスポーツに関わり、生涯にわたり輝き続ける地域社会の実現を目指します。
- ③ 環境整備と連携強化：学校と地域クラブの連携強化、指導者の資質向上、夜間・休日に参加できるプログラムの充実、医療・福祉分野との連携による運動習慣の定着支援を行います。

市民の皆様からのご意見

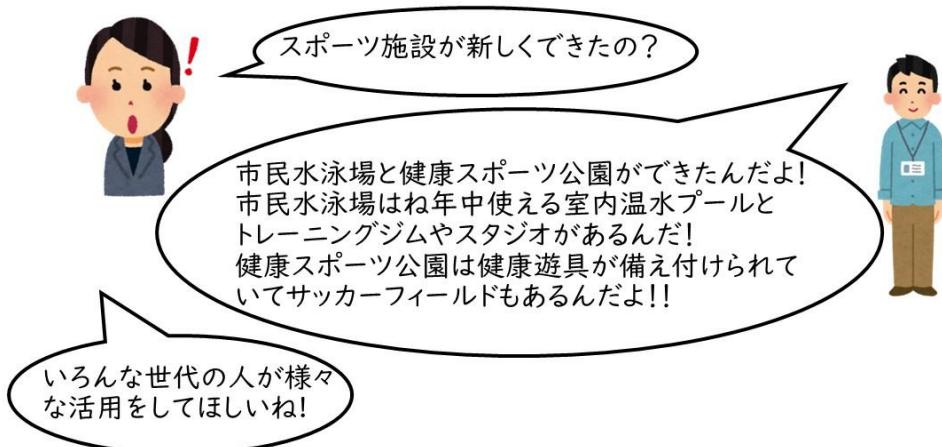
余暇を楽しく過ごすことができれば、どんな形であってもよいと思っている。(50代女性)

聞いて学ぶより、体験して学ぶ方が記憶に残り、役に立つと感じている。(30代女性)

生涯学習に参加したら生活にメリハリがつき、友人との交流が増え生きがいを感じるようになった。(70代女性)



3 スポーツ施設の有効活用



◆現状と課題

区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none">ふるさとの川総合公園、市民体育館、有田市民水泳場 「えみくる ARIDA」、有田市健康スポーツ公園 「BIG SMILE PARK」など、多様なスポーツ施設が健康づくりや地域交流の拠点として活用され、年間利用者数は着実に増加している。老朽化施設では、LED 照明への更新や空調機器導入が進められている。
課題	<ul style="list-style-type: none">世代ごとにスポーツ施設へのニーズが異なるため、ニーズに応じた環境整備を行う必要がある。



有田市民水泳場 「えみくる ARIDA」



有田市健康スポーツ公園 「BIG SMILE PARK」

▼有田市民水泳場「えみくる ARIDA」の利用者数の推移

年度	R2	R3	R4	R5	R6
人数	59,082	105,868	174,466	180,356	187,383

▼健康スポーツ公園「BIG SMILE PARK」の利用者数(概算)

年度	R6
人数	150,200

◆今後の方針

- ① 施設の価値向上: 地域コミュニティと連携し、多様な利用方法を提供することで、年間利用者数の増加を図り、スポーツ施設の価値をさらに高めていきます。
- ② 継続的な施設整備: 全世代共通の取組みとして、各施設において継続的な設備修繕を実施し、市民のスポーツ文化の基盤を築いていきます。また、各世代のニーズに応じた環境整備を行います。

市民の皆様からのご意見

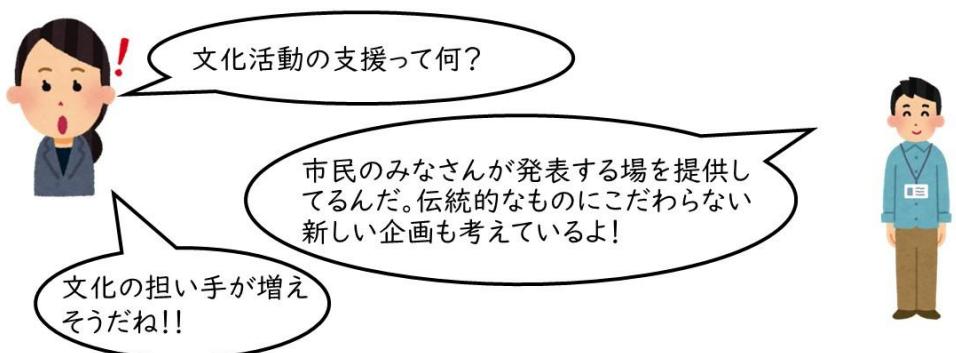
有田市民会館や有田市健康スポーツ公園(BIG SMILE PARK)で、家族で参加できるイベントがもっとあれば、より多くの人が集う場所になると思う。(30代女性)

えみくる ARIDA(有田市民水場)は他の世代の方とコミュニケーションを取りながら体力維持できるのがよい。
(60代女性・70代男性)



第4節 文化芸術活動の推進と文化施設の活用

I 文化活動の支援



◆現状と課題

区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none">・市民一人一人が個性や能力を生かし、心の豊かさを実感できる市民生活を実現するため、文化活動に参加し親しめる機会を支援している。・芸能大会、文芸大会、文化祭及び美術展など、市民の文化活動を後押しし、発表する場を提供している。
課題	<ul style="list-style-type: none">・文化活動の中心を担う有田市文化協会の会員数が減少傾向にある（人口減少、高齢化）。・若い世代が参加しやすく、興味のあることを学び始める機会を提供する必要がある。

▼有田市文化協会会員数の推移

年度	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
人数	648	682	688	663	599	580	534	548	506	494

▼有田市美術展・文化祭の来場者数の推移（概算）

年度	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
人数	3,000	3,000	1,150	1,700	1,700	1,700	1,600	1,800



「芸能大会」(フラ)



「有田市美術展」

◆今後の方針

- ① 活動環境の維持：文化活動を通じて、新たな知識、技能への興味や自己研鑽、文化の担い手を育成する機会、学んだ成果を発表できる場の提供を継続して実施します。
- ② 施設の利便性改善：文化芸術活動に利用できる施設の利便性を改善していきます。
- ③ 多様化への対応：多様化する文化・芸術に対し、伝統的なものだけにこだわらず、新たなニーズを把握し、それに合わせた取組みを企画していきます。
- ④ 文化活動への参加促進：芸能大会への参加や市美術展及び文芸大会に作品を応募していただくなど、様々な分野の文化に触れる環境を作ります。

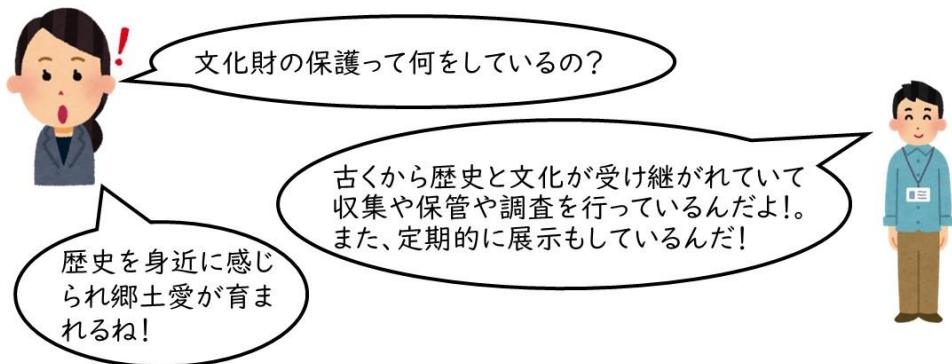


市民の皆様からのご意見

紀文ホールでのコンサートや映画をよく利用していて、次は何がおこなわれるのかと楽しみにしている。(50代女性)

時間を自由に使えるようになり、市民会館のイベントや図書館をよく利用するようになった。(70代女性)

2 文化財の保護



◆現状と課題

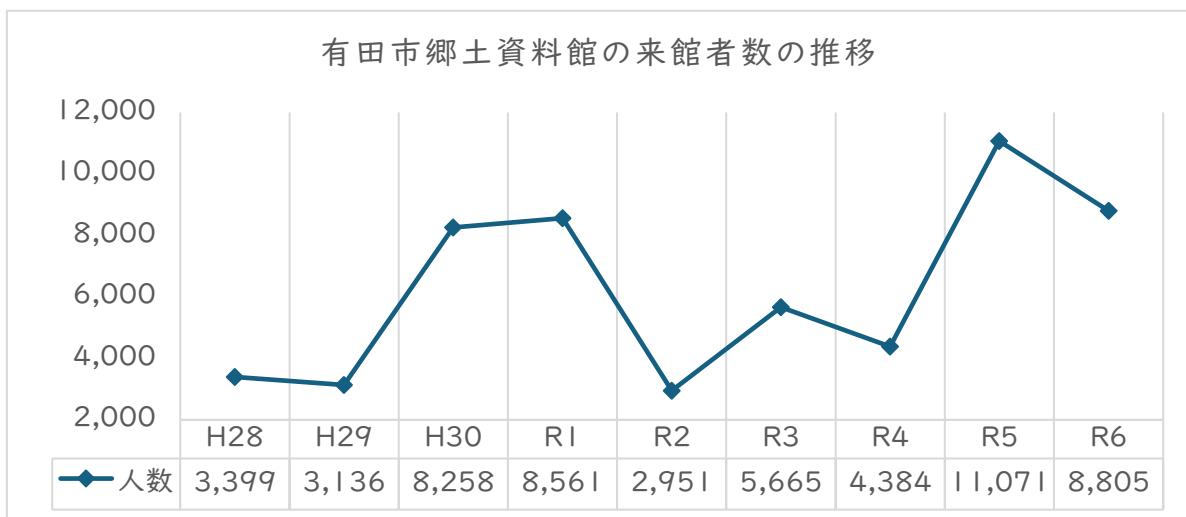
区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none">・有田市郷土資料館や、くまの古道歴史民俗資料館で、市の歴史や文化財の収集・展示、周知活動（出前授業、講座など）を行っている。・市内小中学校への出前授業や、体験学習、市民向け講座を開催するなど、有田市の歴史や文化の周知を行っている。
課題	<ul style="list-style-type: none">・高齢化や人口減少により、文化財を守り伝えていく人材が少なくなってきた。・貴重な文化財を適切に保存・活用し、次世代へと伝えていくための文化財保護意識の向上と郷土愛の醸成が必要。



「国指定史跡 明恵紀州遺跡率都婆保存修理」



「令和7年度特別展 陶工仙馬」



▼くまの古道歴史民俗資料館の来館者数の推移

年度	R3	R4	R5	R6
人数	10,530	10,547	11,086	9,691

◆今後の方針

- ① 歴 史 ・ 文 化 の 周 知：郷土資料館において企画展・特別展を行い、有田市の歴史や文化を伝えます。ニーズに合った市民向けの講座や体験学習を開催するなど、有田市の歴史を感じられるイベント等を企画します。
- ② 担 い 手 の 育 成 と 施 設 の 整 備：文化財保護意識の向上や郷土愛の醸成へ向けた事業を積極的に取り組み、次世代へ伝えていく人材を育成します。また、適切な収蔵・展示施設の整備を行います。
- ③ 次 世 代 へ の 繙 承 と 郷 土 愛 の 醸 成：市内小中学校への出前授業や体験学習の機会を増やし、郷土愛の醸成につなげます。

3 文化施設の活用と芸術鑑賞の提供



◆現状と課題

区分	内 容
現状	・自主事業については、多様な方々が参加・鑑賞が可能である事業となるよう、様々なジャンルの催しの企画に努めている。
課題	・自主事業は、若い世代なども含め、より多くの市民が参加・鑑賞したいと思える幅広い内容を検討する必要がある。 ・利便性が高く居心地の良い施設にするため、施設の整備や紀文ホールの機材更新等を定期的に行う。

▼有田市民会館自主事業の実施回数及び来場者数の推移

年度	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	R6
実施回数(回)	13	15	16	15	16	16	15
来場者数(人)	5,459	5,093	3,425	4,167	5,598	6,396	5,544

●有田市図書館

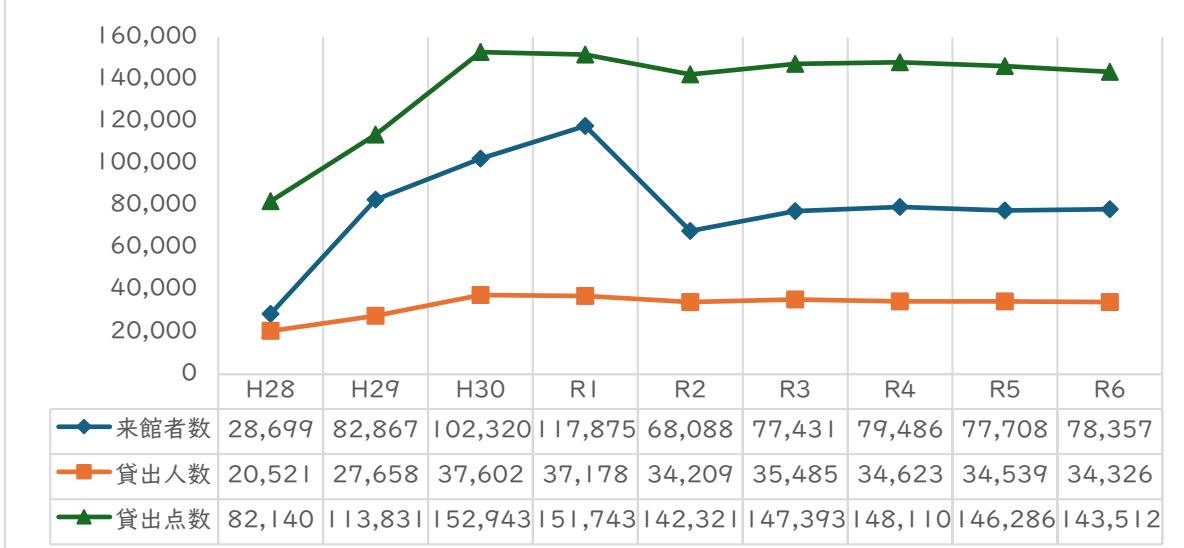
平成29年7月に現在の場所に移転し、延床面積が約1.5倍広くなりました。誰もが利用しやすい図書館になるよう、図書館資料の多様性に努め、対象年齢に応じたイベント等を開催しています。



◆現状と課題

区分	内 容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児から高齢者まで、各対象年齢に応じたイベントなどを開催している。 ・配本サービスを、市内保育所、公民館、小学校、幼稚園等を対象に行っている。 ・中高校生を中心に、自主学習で図書館を利用している人が多い。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習以外にも読書活動につながる図書館利用を推進するよう情報発信を行う。 ・令和4年12月から開始した電子図書館「ありだ市電子図書館」の使い方が分からぬ方のために、操作方法を説明し魅力を伝えていく。 ・配本サービスは、来館できない方のニーズに応えるため、将来的には自動車文庫等で市内を巡回することを検討している。

有田市図書館の来館者数・貸出人数・貸出点数の推移



◆今後の方針

【有田市民会館】

- ① 多様な文化芸術の提供：乳幼児期から高齢期まで生涯にわたって多様な文化芸術に出会える機会を提供するため、幅広い分野の公演を実施します。
- ② 施設の維持管理：設備の刷新や建物の修繕を計画的に進めます。
- ③ 交流の拠点づくり：紀文ホールをはじめ、施設全体が交流拠点として使用されるよう施設の魅力を情報発信します。

【有田市図書館】

- ④ ニーズへの対応と交流：市民の知りたい・学びたいニーズに応えるため、様々な情報を提供し、図書館を中心として多世代が交流できるイベントなどを開催し、地域のつながりを感じられる場になります。
- ⑤ 情報発信の強化：来館型図書館と非来館型図書館（電子図書館）のそれぞれの利点を、様々な利用方法とともに情報発信します。



「近畿大学吹奏学部コンサート」

市民の皆様からのご意見

市民会館の自主事業では、これまで有田市では体験できなかった上質な音楽や演劇、講演に触れることができるようになった。今後も期待している。(60代男性)



図書館では、購入リクエストがあり、様々な種類の本を読む機会があってよい。(60代女性)

第5章 生涯学習推進計画の評価

第1節 評価について

施策や事業の取組みについては、評価を行うことにより、その事業の意義がより明確になり、事業の改善・他事業との連携などにつながります。

第2節 社会教育委員による点検（年次評価）

地域の教育に関わる専門家である社会教育委員と行政担当者が協議し、毎年度の事業評価を行います。社会教育委員は、学校教育・社会教育・家庭教育の専門家や学識経験者で構成され、生涯学習事業の進捗状況や課題について話し合い、毎年事業の評価を行います。

●評価の流れ

- ① 年度当初：行政担当者が事業の実施計画を作成し、社会教育委員の会議で内容を話し合う。
- ② 年度中：社会教育委員は、必要に応じて実際に事業に参加し、気づいた改善点や課題を行政担当者と話し合う。
- ③ 年度末：行政担当者が事業の実施状況を報告し、社会教育委員の会議で話し合い、年間の評価（年次評価）をまとめ、次年度計画に生かす。

第3節 第3次生涯学習推進計画の策定に向けて

この10カ年計画をより効果的に進め、次期計画へつなげるため、下記評価を行います。

1. 中間評価（計画策定から5年目）

- 目的：残り5年間の事業実施を改善し、その後の次期計画の策定に役立てる。
- 実施時期：令和12年（計画策定から5年目）に実施する。
- 評価内容：これまでに実施してきた年次評価を行っている社会教育委員の会議で計画の進捗状況や残っている課題について話し合う。

2. 全体評価（計画策定から9年目）

- 実施時期：令和16年（計画策定から9年目）に実施する。

- 評価内容：5年目の中間評価と同様に、社会教育委員の会議で、これまでの事業実施の成果と今後の課題について話し合い、計画全体を評価する。
- 次期計画：全体評価の結果を次期計画策定に役立てるとともに、その時点の生涯学習のニーズを正確に把握するため、アンケート調査の実施や、市民参加のワークショップなどを開催する。

資料編

○ 生涯学習関係施設一覧

種別	施設名	所在地	電話
公民館施設等	初島公民館	〒649-0306 有田市初島町浜1367-3	0737-82-4159
	港町公民館	〒649-0305 有田市港町511	0737-82-5957
	箕島公民館	〒649-0304 有田市箕島627-3	0737-82-2276
	中央地区公民館	〒649-0317 有田市古江見201-1	0737-82-1093
	宮崎公民館	〒649-0316 有田市宮崎町486-2	0737-83-3955
	保田公民館	〒649-0311 有田市辻堂533-1	0737-82-3168
	宮原公民館	〒649-0434 有田市宮原町新町189-1	0737-88-5524
	糸我公民館	〒649-0421 有田市糸我町中番408-2	0737-88-5500
	宮原コミュニティセンター (R8.10 共用開始予定)	〒649-0435 有田市宮原町滝川原1	0737-88-5524
文化施設	有田市文化福祉センター	〒649-0304 有田市箕島27	0737-82-3221
	有田市民会館	〒649-0304 有田市箕島46	0737-82-2626
	有田市図書館	〒649-0304 有田市箕島46 (有田市民会館2階)	0737-82-3220

種別	施設名	所在地	電話
歴史・文化財施設	有田市郷土資料館	〒649-0304 有田市箕島27 (有田市文化福祉センター4階)	0737-82-3221 (文化福祉センター代表)
	有田市みかん資料館	〒649-0304 有田市箕島27 (有田市文化福祉センター4階)	0737-82-3221 (文化福祉センター代表)
	くまの古道歴史民俗資料館	〒649-0421 有田市糸我町中番330-2	0737-88-8528
	山口王子社跡広場	〒649-0436 有田市宮原町道	0737-82-3221 (文化福祉センター代表)
	くまの古道ふれあい広場	〒649-0435 有田市宮原町滝川原1	0737-82-3221 (文化福祉センター代表)
スポーツ施設	ふるさとの川総合公園	〒649-0435 有田市宮原町滝川原地内	0737-22-3765 (生涯学習課社会体育係)
	有田市民球場	〒649-0316 有田市宮崎町2497-2	0737-82-0701
	有田市民水泳場 「えみくる ARIDA」	〒649-0306 有田市初島町浜1650-1	0737-22-3250
	有田市健康スポーツ公園 「BIG SMILE PARK」	〒649-0306 有田市初島町浜1665	070-9306-3122 (公園内管理事務所)
	有田市民体育館	〒649-0306 有田市初島町浜1756-5	0737-83-0109
	保田地区体育館	〒649-0311 有田市辻堂469	0737-22-3765 (生涯学習課社会体育係)
	宮原地区体育館 (R8.10 共用開始予定)	〒649-0435 有田市宮原町滝川原6-2	0737-22-3765 (生涯学習課社会体育係)

○ 第2次有田市生涯学習推進計画策定の経緯

開催時期	内 容
令和5年5月22日	令和5年度 第1回有田市社会教育委員会議
令和5年5月24日	第2次有田市生涯学習推進計画に向けての打ち合わせ 相談(和歌山大学 村田和子氏 佐藤祐介氏)
令和5年7月13日	有田市社会教育委員会視察研修会 田辺市
令和5年9月19日	第2次有田市生涯学習推進計画に係る研修会 講演 有田市の未来をつくる生涯学習計画づくり 講師 和歌山大学 村田和子氏 佐藤祐介氏
令和6年3月4日	令和5年度 第2回有田市社会教育委員会議
令和6年5月23日	令和6年度 第1回有田市社会教育委員会議
令和6年6月10日	第2次有田市生涯学習推進計画に向けての打ち合わせ 相談(和歌山大学 佐藤祐介氏)
令和6年6月26・27日 7月 3・5日	有田市社会教育委員会視察研修会 市内社会教育施設見学
令和6年8月7日	令和6年度 第2回有田市社会教育委員会議
令和6年9月19日	第2次有田市生涯学習推進計画に係る研修会 講演『社会教育・生涯学習』の歩き方 講師 和歌山大学 佐藤祐介氏
令和6年11月29日	第1回 有田市生涯学習推進計画協議委員会 ・市民アンケート調査項目(案)について ・今後の計画について
令和7年3月6日	令和6年度 第3回有田市社会教育委員会議
令和7年5月19日	令和7年度 第1回有田市社会教育委員会議
令和7年5月26日	生涯学習推進計画に向けての打ち合わせ 相談(和歌山大学 佐藤祐介氏)

令和7年6月12日	第2回 有田市生涯学習推進計画協議委員会 ・生涯学習（市民）アンケート結果について ・基本理念（方針）について ・今後の計画について
令和7年6月27日	有田市社会教育委員会視察研修会 上富田町
令和7年7月25日	有田市社会教育委員と公民館館長の研修会
令和7年9月30日	第3回 有田市生涯学習推進計画協議委員会 ・第2次有田市生涯学習推進計画の概要について ・第2次有田市生涯学習推進計画の内容について
令和7年11月27日	第4回 有田市生涯学習推進計画協議委員会 ・第2次有田市生涯学習推進計画の内容について ・今後の計画について
令和7年12月22日～ 令和8年1月20日	「第2次有田市生涯学習推進計画」（案） パブリックコメント実施
令和8年2月10日	第5回 有田市生涯学習推進計画協議委員会 ・パブリックコメントについて ・その他
令和8年2月　日	令和6年度 第2回有田市社会教育委員会議
令和8年2月　日	有田市教育委員会2月定例会